

MITSUMORI

株式会社 三森コーポレーション 2022 冬号

013

新年号

2022年もよろしくお願ひします!

キラリこの1台

■報告者：飯田 修 ■車名：日産フェアレディZ ■型式：HS130

みんもの物語

ホスト：営業課 鈴木 悠平
スタッドレスタイヤ

Shall we take a break?

自動車パーツのアップサイクルが、今アツイ!

写真のモデルは、後列左：濱田 / 真ん中：伊藤 / 右：二階堂 | 前列左：佐藤 / 真ん中：山本 / 右：坂口

Mitsumori's Staff 中古部品マイスター

三森コーポレーションが誇る中古部品に関する プロフェッショナルスタッフをご紹介します

樋山 勝斗 KATSUTO HIYAMA

主な業務：販売フロント
座右の銘：艱難汝を玉にす
勤続年：1年6ヶ月

入社のきっかけ・会社の印象：

前職は某ガソリンスタンドで11年間勤務しておりましたが、「30歳」という人生の節目に人として経験値を積んでいた!!と思っていたところ、三森コーポレーションの求人目に見が留まりました。まずはアットホームな社風と車の知識に卓越した方々が沢山いらっしゃる、自分も「車マニアック」(笑)になりたいならここだ!!と直感で思いました。今は毎日、楽しく学びながら仕事させて頂いております。

趣味・特技・ハマっている事など：

本当であれば「お酒大好き!!飲み会!!」と言いたのですが、このご時世ですので我慢しています。格闘技を鑑賞するのが昔から大好きでRIZIN・K-1の試合は目を血眼にして見えています(笑)。今はどの団体もスター選手が多いので毎回どの対戦カードも魅力的です。

休日の過ごし方：

家の掃除や買い出し。気になる飲食店に出掛けリフレッシュしています。三森コーポレーションの皆様へ膨れ上がったお腹を注意されておりますが「甘党男子」なので最新スイーツ情報を収集しています。

仕事で気をつけている事：

お客様が求めていることを正確に把握し丁寧な対応を心掛けたいと思っています。また、電話対応の第一声で元気と信頼をしてもらえるように常に勉強の毎日です。電話対応の素晴らしい諸先輩方が沢山、身近におりますので良い部分はしっかり吸収します!

愛車と選んだ理由、気に入っている点：

三菱 トッポBJ (TA-H42A)
通勤がメインになります。今は欲しい車を模索中です。
オススメの車あったら教えてください。

お客様へ：

まだ、入社歴は浅いですが、しっかりお客様が求めていることを把握しスムーズな対応で誠心誠意対応させて頂きます。是非、ご連絡下さい!



Mitsumori Corporation

株式会社 三森コーポレーション

〒983-0821 宮城県仙台市宮城野区岩切3丁目2番24号
部品のお問合せは：TEL 022-255-6564 FAX 022-396-1008
URL <http://www.3mori.co.jp>



キラリ☆この一台



■報告者：飯田 修 ■車名：日産フェアレディZ ■型式：HS130

「キラリ☆この一台」の第3弾です。これは社員が自分の乗っていた車や憧れの一台について勝手にうんちくやらを熱く述べる自己満足100%の企画です（笑）内容についての意見やクレーム等は一切受けませんのでご了承下さい!!

さて、今回は入社22年目の飯田が130Zについて熱く語ります!!

この車の魅力や思い出

こんにちは、販売課の飯田です。
私が今回ご紹介する車は、初めて所有した車でもある日産フェアレディZ（通称130Z）です。初代S30型（昭和51年に排出ガス規制に対応するため、キャブレター1式から電子制御式の燃料噴射装置に改良されたS31型を含む）の2代目として1978年にS130型が誕生しました。

初代からの伝統であるロングノーズ、ショートデッキの流線形のボディ形状や丸目のヘッドライトなどがそのまま受け継がれ、全長約30cm全幅6cm程サイズが大きくなりました。内装は先代の特長でもある3連メーターが残され少し近代化されたデザインで、シートは2シーターと4人乗りの2by2があったこともこの当時のフェアレディZの特長とも言えます。

エンジンは、2000ccのL20E型直列6気筒SOHC（最高出力130PS）と、2800ccのL28型直列6気筒SOHC（最高出力145PS）がありました。
北米市場でも人気があったフェアレディZはS30型が9年間で52万台、S130型が5年間で42万台生産されましたが、1982年に2000ccターボのL20ET（最高出力145PS）がマイナーチェンジで発売されてから僅か11ヶ月後の1983年にV型エンジンを搭載したZ31（VG20・VG30）が発売されL型のフェアレディZは幕を下ろしました。



S130型フェアレディZを購入した理由

高校生の時にZ31型のチューニングされたフェアレディZに乗っている知人がいて同乗させてもらったその魅力に憑りつかれてしまいました。

その後、車を探す事になったのですが、免許を取った当時は現行型のZ32型はもちろん、Z31型も高額だったので購入を先送りしていたところ、知人の紹介で、ある中古販売店へ行ってみました。お店の社長に「車両置き場に行つて気に入ったのあったら声をかけてね!」と言われて行つてみるとその場所には、ハコスカやケンメリ、旧型のZたちが並んでおりました。その頃も旧車ブームでしたので既に価格が高騰していたS30Zの奥に色褪せた黒いHS130Z（2800CC）がありました。
何度か置き場へ足を運び、その黒いS130Zを見ているうちに独特のボディ形状が気に入り購入することにしました。



新車から13年経過していたので、外装を塗り直したとしてもZ31やS30より予算を抑えて納車してもらうことが出来ました。
この車を所有するようになってから、L型エンジンが搭載されている車のオーナーさんが仲間として増えていきました。ソレックスやウエーバーのキャブレター、タコ足、マフラーなど一通りのいたずらはしてみましたが、1995年の法改正以前は、新車登録より



10年経過している乗用車は1年毎の車検でしたので都度パーツを純正に戻した記憶があります。（この時代の車両には車検対応などのパーツは存在しませんでしたので大変でしたね。）故障も度々あつて、デストリビューターのピックアップ不良や右リアのロアアームが腐つてヒビが入ったり、助手席のパワーウィンドウのモーター不良など・・・部品取り車を所有していた友達に譲ってもらいなんとか修理することが出来ていました。
ところが別れは突然やってきました。
2回目の車検を取得した直後、なんと大型台風が宮城を襲い浸水してしまったのです・・・エンジンコンプレクターにも水が入ってしまいました。が、奇跡的に自走出来ていたの直して乗るか色々考えましたが、想像以上にお金がかかりそうだったので、泣く泣く地元の中古販売店で買い取ってもらいS130Zとの生活は終了しました。
その後、もう一度同じ型式の逆輸入車（2800ccターボ車）を他県まで見に行つたりしましたが、故障した場合の部品が入手困難な事も考え躊躇していました。最後のZは当時価格が安くなってきたZ32型のフェア

アレディZを購入し、しばらく乗っていましたがS130ほどの衝撃的な魅力は感じられず、結局手放してしまいいつまでか終わりました。
去年、新しいZ（北米仕様）が発表されましたね。日本での発売も間近なので是非実物を見てみたいですし、もしかするとガソリンエンジンでのZはこれが最終モデルなのでしょうか？Zの名前がこれからは絶える事なくずっと販売して欲しいと願います。
S130と過ごせた事は青春の1ページとして大切な記憶です。また機会があったらもう一回フェアレディZ！ S130Zをカッコよく乗りたいな。



特にスタッドレスタイヤはBS、ヨコハマ、ダンロップ、トーヨーなどメジャーメーカーのものが好まれます

スタッドレスタイヤは春・夏がお得!

そりゃ訳の分からない海外メーカーのタイヤ履いてぶつかるなら

1mでも30cmでも手前で止まる高性能な国産タイヤのほうが安心ですからね

実は中古スタッドレスタイヤなどは秋に買うのではなく春から夏にかけて買うのがお得です!!(知ってました?)



こんにちは!

三森コーポレーションの悠平です



理由は冬場に解体車として入庫する車は大体スタッドレスタイヤを履いています(東北、北陸、北海道ではほぼ100%)

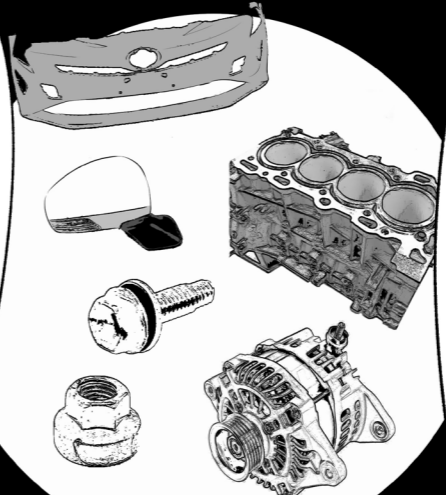
その車を解体し状態が良ければ商品化します中には保険の関係で数か月間解体できない場合もあります

全部スタッドレスタイヤ



自動車の中古部品と云えばその数は多くエンジン、ミッションのような大きく重いものからスイッチ類やバイザーのようなもの

現車があればですがたとえビス1本に至るまで販売する事は可能です



今回は私が**中古部品の活用方法**についてお話ししたいと思います



そうするとこのような事が...

2月頃からスタッドレスタイヤの在庫が増えはじめ夏ぐらにはピークに!

タイヤって意外と場所を取るので倉庫がすぐにいっぱい!

少し値段下げてでも販売しちゃえ! って事で少し値崩れし始めるのが春先から夏にかけて起こりやすくなります

ドゥツツ



私が販売していて意外とお値打ちだなーと思うものは

タイヤです



中古部品





と、ひと息いかがですか? Shall we take a break?

～3分で読める休憩コラム～

自動車パーツのアップサイクルが、今アツい!

皆さんは、「アップサイクル」という言葉をご存じでしょうか? 「リサイクル」という言葉はご存じの通り、廃棄素材を再利用することですが、「アップサイクル」は、その再利用の際にさらに機能性やデザイン性などの付加価値を加え、より良いものにつくりかえることを指します。日本では2005年1月から「自動車リサイクル法」が施行され、メーカーにリサイクルの責任を果たすことが義務付けられました。新車購入時には購入者の皆様にもリサイクル費用をご負担いただいています。そうしてご負担いただいた費用を前向きに商品開発につなげるアップサイクルの動きが、今、高まっているのです。



では、どんな商品があるのか。その一部をご紹介させていただきます。例えばリュック。荷物入れ部分はエアバッグ、蓋の留め具はシートベルトのバックル、背負い紐はシートベルトといった、自動車好きにはたまらないデザインのリュックがあります。

また、廃タイヤをつかった財布や名刺入れ、カバンもあります。元がタイヤなので強度もあり、水にも強い商品です。もともとのタイヤの溝の模様や数字の刻印がデザインとして使われており、ひとつとして同じものがない、一点物の商品です。



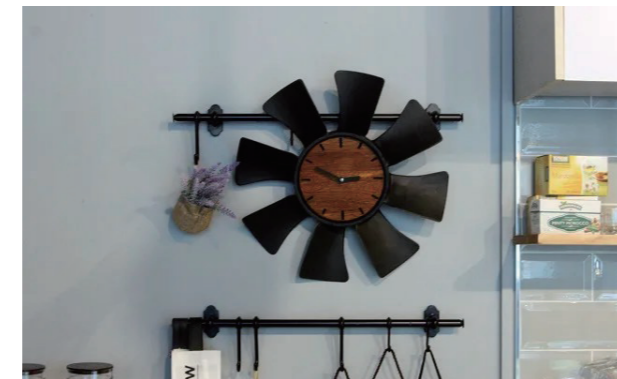
シートレザーをアップサイクルした商品もあります。自動車の品質基準はとて高く、丈夫で上質なレザーバッグに適している素材とも言えます。

また、洋服にもアップサイクルされた商品も。デニムや革の切れ端を使ったスーツ、車のガラスや金といった素材を再利用したアクセサリなど様々です。



そして、最後は、車の機構部分のパーツを利用したインテリア家具。ファンを使った掛け時計などは、映画にも出てきそうなおしゃれな風合い。車好きのこだわりのガレージにもよく似合いそうなデザインです。

このように、多くのアップサイクル商品が開発され、環境配慮されるとともに、より良い商品に生まれ変わっています。愛車に楽しんで乗ったあとは、愛車を思わせるアップサイクル商品で、なが〜くカーライフを楽しんでみてはいかがでしょうか。



上記の記事は、自動車業界専門コンサルティング会社「株式会社チームエル」様のご協力によりご提供いただいています

Team-L
株式会社チームエル

